

RFMD アナリストデイ・プレスリリース



rfmd.com

会社連絡先：

RF Micro Devices Inc.
Brian K. Cockman, Public Relations Specialist
7628 Thorndike Road
Greensboro, NC 27409-9421, USA
電話: +1 (336) 678-8945
bcockman@rfmd.com

RFMD社、アナリストデイの発表で 2006年12月四半期財務見通しを修正

ノースカロライナ州グリーンズボロ、2006年11月28日(RFMD社アナリストデイ・イベント): 移動通信駆動用各種アプリケーション向けに高性能無線システム/ソリューションを設計、製造して業界をリードするRFMD社(ナスダック:RFMD)は本日、2006年12月31日に終了する2007年第3四半期の財務見通しを修正発表した。これは2006年10月24日召集された同社の会議で行われた会議招集を伴う四半期収益の当初発表の内容を変更するもの。ニューヨークで行われた今年2回目のアナリストデイの発表でも、同社は無線マーケットの全世界的な強さと同社のシェア拡大の見込みについてコメントしている。

RFMD社は現在、2006年12月四半期の収益について2.64~2.80億ドルの範囲を予測しており、これは前期比で約7~13%の成長に相当し、また前年比では約27~35%の成長に相当する。また同社は現金以外の株式ベースの報酬費の予測値と現金以外の無形資産減価償却費としての総額約330万ドルを含めた場合として、2006年12月の四半期の会計原則ベースの純利益を希薄株1株当たり0.10~0.12ドルと予測している。また同社は、現金以外の株式ベースの報酬費の予測値と現金以外の無形資産減価償却費を含まない場合として2006年12月の四半期の非会計原則ベース純利益を希薄株1株当たり0.12~0.14ドルと予測している。

またこの発表では、POLARIS RFソリューションの出荷が5千万個を超えたこと、またPOLARISによる2006年12月四半期の収益が2006年9月四半期に比較して更に拡大するという予測を同社が継続していることについても言及があった。さらにRFMD社は携帯電話、無線接続、インフラの3つのビジネスユニットでそれぞれの新製品サイクルが暦年2007年における収益の拡大に貢献するという見込みについても述べた。特に同社ではGPS、WLAN、WiMAX、アナログ補完、RF高出力基地局などの新成長市場をターゲットとして最近市場に投入した製品が同社の期待する売上げと収益の拡大に大きく貢献するものと見込んでいる。

今回のアナリストデイのプレゼンテーションは、<http://www.rfmd.com>からウェブキャストによる再生やファイルの保存ができる(「Investor Info」から)。

RFMD 社による現金以外の株式ベースの報酬費の予測方法には財産目録として資産勘定に計上される新たなGrantや終結等に関する金額は含まれておらず、また無形資産減価償却費の予測方法では無形資産の追加記録は想定されていない。RFMD 社では現在のところ現金以外の株式ベースの報酬費が粗利益や営業経費に与える影響については予測できないが、その情報については2006年12月の結果に含めるとしている。したがって、実際の四半期の結果はこれらの予測値とは異なる可能性があり、またそのような差異の幅が大きいことも考えられる。

RFMD 社は粗利益、営業利益、純利益、および1株あたり利益 (EPS) を会計原則 (GAAP) ベースおよび非会計原則ベースで報告する。RFMD 社では、非会計原則ベースの財務手法は投資家に対する重要な補足情報となって経営者の目で見えた営業結果の深い理解に役立つものと考えている。RFMD 社がこの補足情報を提供することにしたのは、投資家が RFMD 社の本質的な営業成績の動向をわかりにくくする可能性のある現金以外の経費や特異な項目に妨げられずに営業結果を比較し財務成績を分析できるようにするためである。会社の経営陣はこれら非会計原則ベースの財務政策を内部的に用いて戦略的な判断を行い、将来の成績を予測し、また現在の成績の評価を行う。これら非会計原則ベースの財務手法は会計原則ベースの財務政策に従ったものではなくまたその代替手段となるものでもなく、また他社が利用する非会計原則ベースの財務手法とも異なっている場合がある。

RFMD について : RF Micro Devices, Inc. (NASDAQ RFMD)は移動通信の主要アプリケーション向けに高性能な無線システム/ソリューションの設計、製造を行う会社で、この業界のグローバル・リーダー。RFMD 社のパワーアンプ、送信モジュール、携帯電話用トランシーバ、およびシステム・オン・チップ (SOC) ソリューションは現在および次世代の携帯端末、基地局、無線ローカルエリアネットワーク (WLAN)、無線パーソナルエリアネットワーク (WPAN)、全地球測位システム (GPS) などの最新機能をサポートし、全世界的なモビリティの向上と接続性の拡大に寄与するもの。最先端の半導体技術による幅広い製品ラインと無線システムの豊富な経験で定評のある RFMD 社は、現在および将来の市場要求を満たす最新無線機能のサプライヤーとして、世界中の主要な移動通信機器メーカーから選ばれている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置くRFMD社はISO 9001 およびISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD社はRFMD銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報はRFMD社のホームページ、www.rfmd.comに紹介されている。

このプレス・リリースには、1995年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act) がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異なる場合があります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイス社の事業には多くのリスクや不確定性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリ

スク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確定性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイセス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確定性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® および RFMD® は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###